

何に闘ふべきであらうか？ グラ幹の活躍に對して拱手傍觀の態度を取ることは我々にとつて許され難いことである。

(ロ)我々はこの際合同反對の運動を捲き起す可きであらうか？ 斷じて否、一般の大衆は既に、社民、労大兩黨に對して、無關心に陥つてゐる。従つてそれら二つの黨が合同しやうが合同しまいが大衆にとつてはどつちでも同じことなのだ、當面合同反對運動なんかによつて大衆をプロレタリアートの陣營につなぎ止めることは不可能である。

(ハ)必要なことは、現在、グラ幹政黨に對して無關心に陥り、あしそづかしをしてゐるところの——それは一般大衆のグラ幹共に對する消極的な反抗である——大衆を積極的な反グラに闘争動員するための最も効果的方法を發見することに在るのだ。

(ニ)大衆をグラ幹共の影響から引離すためには、單にグラ幹共の反動性を暴露しただけでは駄目だ、我々は獨白に政治的カンパを計畫し、その闘争に大衆を動員しなければならぬ。

(ホ)グラ幹の影響下に在る大衆や未組織大衆をも闘争に動員するための組織は、工代、農代を基礎とするところの大

衆の自主的カンパニア組織(勞農協議會)だ。

(一)ところで刻々の政治的状態に照應して全國的カンパ組織を次々に組織するためには、その運動を全體的に指導する指導政黨とそのカンパ運動の先頭隊である、労働組合と農民組合との恒常的協議機關が必要である。

(ト)當面吾總評議會に課せられてゐる任務は『労働組合と農民組合との恒常協議機關』の完成にある。

(チ)右の目的を達成するための『労働組合と農民組合との恒常的協議機關』の最も完成された形態は『勞農政治闘争同盟』である。(勞農黨第二回大會議案参照)

(リ)だが當面我々は直ちに『勞農政治闘争同盟』を樹立すべきではない。指導部の極度に微力な時に『勞農政治闘争同盟』の如き、それ自身の組織内に廣汎なる大衆を持つた組織を作るならば、それは、やがて、政黨的機能を發揮し独自の指導を行ふやうになるから。

(ヌ)勿論『勞農政治闘争同盟』が政黨的機能を發揮するやうになつたからと云ふて、もしそれが純粹に左翼的性質を維持してゐるならば、それによつて生ずる『イ害』は極めて少く相當目ざましい効果をあげるのであらうことが豫測さ

れる、尤もそれが左翼的純粹性を失つた場合はそれによつて生ずる『イ害』はその效果に十倍するに至るに相違ないのである。

我々は當面の主體的並に客觀的諸條件の下に於ては勞農政治闘争同盟をして左翼的純粹性を保持せしめることはかなり困難だと考へる。

(ル)當面我々が即時着手しなければならないのは、寧ろ『勞農政治委員會』準備會の結成である。

(ヲ)『勞農政治委員會』は全國の労働組合並に農民組合の中の先進分子によつて組織された政治的協議機關である、その恒常的機關としては、中央に、中央事務局が置かれ、各地に地方事務局、並に地區事務局が置かれる、それらの事務局は必要に応じて委員を召集し並に各委員間の聯絡を取り且つ不斷の必要な調査を行ふ。

(ワ)勞農政治委員會の中心任務は政治的カンパを起さんとする場合に、各組合の先進分子の、カンパニヤ遂行に關する一切の事務を統一することに在る。

(カ)我々はこの『勞農政治委員會』の組織を通じて、各組合の先進分子の捲き起さんとする政治闘争を統一し、その闘

争を通じて、各工場職場、各農村に於ける反グラ闘争を組織化し積極化しなければならぬのである。

(ヨ)我々は全國のあらゆる、勞、農組合の大衆——ファツ

シヨ社會ファツシヨ幹部の影響下にある大衆をも含めて——この『全國勞農政治委員會』結成のカンパニヤに動員し、それによつてグラ幹の裏切り行動と、徹底的に戦はねばならぬ。

(タ)勞農政治委員會結成の具體的方針に關しては新中央執行委員會へ一任すべきであると思ふ。

▼ファツシヨ社會ファツシヨ粉碎

▼各工場農村で反グラ闘争を巻き起せ!

▼戦闘的勞農政治委員會の結成

萬歳!